

# 加藤のコラム

第15号（2017年3月）

WBCが終わりました。世界一奪還はなりませんでしたが、侍ジャパンよくがんばりました。アメリカでの試合は平日の昼間に中継なので見られませんでしたけど。

第1回大会は尊敬する王貞治監督がチームを率いており、かなり気合いを入れて応援していたことを思い出します。

さて、このWBCで改めて気付いたことが二つ。



その1：元々高い技術を持った人たちが真剣に取り組めば、それは感動をもたらすということ

私たちの仕事に置き換えて考えてみると、高い技術は…残念ながらまだまだ持ち合わせていません。でも真剣に取り組むことは心持ちしだいです。真剣に取り組んでいれば感動の瞬間や結果がまちがいに訪れるというほど甘い仕事ではないですが、感動の瞬間や結果が訪れる人は例外なく真剣に取り組んでいるということにまちがいはないでしょう。

「結果云々を気にするよりも、真剣かどうかを気にするべきなのだ」ということに改めて気付くことができました。WBCありがとうございます。

その2：出番がなかなかこない人たちがくさることなく、チームのために何ができるかを考えて実行していたからチームは空中分解せずに結束できたのだろうという想像。

勝負事には流れがあるので、いい流れであればあるほどその流れを変えにくいものです。したがって、出番が少なくなってしまう選手はどうしても出てくるのだらうと思います。私たちの仕事でもそれに似たようなことはあり、利用者さんのテンションが上がって本来の動きを停滞させてしまう存在になってしまった時期は、チーム内におけるその利用者さんへの出番を減らして様子見することがあります。侍ジャパンで、残念ながら出番が少なくなってしまった選手たちはどうしていたのでしょうか。あくまで加藤の勝手な想像ではありますが、練習時の雑務や声出しなど、裏方的な仕事を自分で見つけ、少しでもチームに貢献しようとしていたのではないかと思うのであります。さて、ボクなんかどう考えても、ゆいの中で利用者さんへの出番は少ない（というか期待をさほどされていない）わけで、「いなくてもなんとかなる存在第1位」であるという確固たる自信があります。そんな存在ではありますが、何か貢献できないかなあというのは自分なりにいつも思っていて、除雪・草刈り・ゴミ拾いくらいは人よりも少しはガンバローとしております。そのくらいしかできていないけれど、そのくらいであってもチームの流れを止めていないからいいのかもしれないと、今回のWBCで少し思うことができたのでよかったです。WBCありがとうございます。

侍ジャパンの監督、コーチ、選手、スタッフのみなさん、ありがとうございました。なお、日本のプロ野球はなんだかんだとジャイアンツが勝つことになっております。

文責：加藤 潔